

「延岡総合文化センター」及び「野口遵記念館」の指定管理者選定方法（案）に関する意見一覧及び本市の考え方

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方	
1	指定管理者	選定方法	「のべおか第九演奏会」「ひむかオペラ」など、水準の高い多くの芸術文化活動が地方都市である延岡市で実現できているのは、各文化団体の継続的な努力と、文化センターの事業企画力とそれを実行していく熱意、各文化団体への強力なバックアップができていからと実感しています。市民の芸術文化活動は、文化センターと各文化団体との信頼関係が非常に重要である、と感じています。指定管理者の選定方法については、今までそのような実績、そして各文化団体と築き上げてきた信頼関係を大いに評価した上で決定して頂きたいと強く願います。	<p>今回、指定管理者の公募にあたり、最も配慮しなければならない事項の一つが、文化センターを拠点としてこれまで継続して活動されている「のべおか第九を歌う会」をはじめとする文化活動団体の育成や支援と考えております。そのため文化活動団体への継続的な支援を選定基準の一つとしており、また、公募の募集要項や仕様書にも明記することにしております。</p> <p>さらに、新たな指定期間（令和3年4月1日から5年間）が始まりましたら、モニタリングとして、次期指定管理者（既存指定管理者が再度選定された場合を含め）が適正かつ確実なサービスを提供しているかの確認をしていくこととしております。</p>	
2			文化事業は合理化だけではいいものはできません。私たち演奏者と一緒に情熱と理解を持って、いいものを市民の皆さんに伝えていくことが、延岡市の文化の発展につながります。延岡総合文化センター及び野口遵記念館の管理者は、オペラへの理解や実績のあるのべおか文化事業団に引き続きなりますよう、切に希望いたします。		
3			今回延岡総合文化センターと野口遵記念館の管理を一元化するという事は、延岡の文化活動の拠点を一括管理することで今まで以上に多種多様な活動が盛んに行われることとなるだろうと期待をしています。その中で現在の指定管理者であるのべおか文化事業団の存在は大きなものとなってくると考えられます。特に文化連盟の所属する多くの団体とのコミュニケーションや今までに培ってきた信頼関係はこれからの事業展開を進めていくうえで大きなものとなってくると考えられます。		<p>いただいたご意見のとおり、延岡総合文化センターと野口遵記念館を一体的に管理することにより、これまで以上に市民の皆様が文化振興に貢献できるものと期待しております。</p> <p>また、指定管理者の応募資格の一つに「公立文化施設の指定管理の実績があること」を挙げておりますので、少なくとも文化施設の利用者とのコミュニケーションの面で実績のある団体が応募されると考えております。また、既存の指定管理者以外の団体には、施設に精通する従前の施設職員の雇用について配慮する提案を選定基準に含めているところです。</p>
4			指定管理者を本年度公募されるということですが、来年は延期された国民文化祭があり、指定管理者が変わることは出演者としては不安があります。		<p>現在の指定管理者の指定期間が今年度末までとなっているため、次期指定管理者選定に向けた準備を行っているところです。</p> <p>また、指定管理者の応募資格に県内において、公立文化施設の指定管理の実績があることを挙げております。利用者の皆様が安心して利用していただけるように、モニタリングとして、次期指定管理者（既存指定管理者が再度選定された場合を含め）が適正かつ確実なサービスを提供しているかの確認をしていくこととしております。</p>
5			公募されることは、良いことと思います。公募の要件で、県内にある指定管理者経験とあるが、もう一歩踏み込んで、公益財団が好ましいのではないかと。		<p>全国の公立文化施設の指定管理者を調べてみますと、もちろん公益財団もごございますが、営利法人やNPO法人の例も数多くありますので、今回の応募要件では、公益財団法人に限定していません。</p>
6	事業展開	地元へ根付いた事業展開をどうやっていくかがカギだと思います。これにはのべおか文化事業団の力を活用することが最も安定した運営、経営ができると思います。今まで培ってきた経験や知識をフル活用して使いやすく、市民がいつでも集える環境づくりを目指してほしいと思います。	<p>今回の応募資格の一つに、「公立文化施設の指定管理の実績があること」を挙げておりますので、知識や経験のある団体の選定については担保されていると考えております。</p> <p>また、使いやすく、市民がいつでも集える環境づくりは非常に大事な点ですので、仕様書等に反映させたいと考えております。</p> <p>さらに、モニタリングとして、次期指定管理者（既存指定管理者が再度選定された場合を含め）が適正かつ確実なサービスを提供しているかの確認をしていくこととしております。</p>		
7		事業団が育て上げたのべおか「第九」を歌う会や延岡フィルハーモニー管弦楽団、さらにひむかオペラの会、シニア劇団のべおか笑銀座の活動を、もう一つ進んだ展開をしていくためのアイデアの提供やコラボレーションの創造を期待します。	<p>今回の応募資格の一つに、「公立文化施設の指定管理の実績があること」を挙げておりますので、どの団体が選定されても、これまでの経験をもとに、様々なアイデアが提供されることを期待しているところです。</p>		
8		一括管理という枠の中で、人員の交流はもちろんです、延岡総合文化センターと野口遵記念館の企画を競争させるようなシステム作りをしてはどうかと思います。二つの会館の観客の動員比率や事業の優劣を比較競争させることでもう一段洗練された事業の展開を期待します。	<p>二つの施設を一体的に管理しますので、人員の交流も行われると思いますし、広報などPRの面でも連携した取組が可能になるものと考えております。また、野口遵記念館がリニューアルされることで、利用者数も飛躍的に伸びると期待しております。まずは、二つの施設が連携することで、市民の皆様が使いやすいと思えるような施設の運営がなされることが大事であると考えております。</p>		
9	野口遵記念館	開館事業	建物の入札が不発となっている現状から、当初より9ヶ月延期であり、野口遵記念館のオープン前の準備ができるのですか。	<p>現在、建築主体工事の早期発注に向けた準備を進めているところであり、当初の予定通り令和4年中の開館を目指してまいりますと考えております。</p>	
10			市民の方に多く利用してもらうために、バックヤード見学会を企画してはどうか。	<p>たくさんの方の市民の皆様にご利用していただくためには、バックヤード見学会の実施は効果的な取組と考えます。開館準備の中で参考にさせていただきたいと考えております。</p>	
11	野口遵記念館	管理運営	休館日を週1日平日としているが、観光目的で、野口遵ギャラリー訪れる人向けには、休館とはしない体制が必要ではないかと。	<p>まちなかの賑わい創出を意識しながら、ホール利用の無い日の施設運用について、費用対効果を含め、様々な観点から検討いたします。</p>	
12			事業計画	野口遵ギャラリーに読谷山市長は、野口遵翁の失敗談を展示すると表明していますが、その展示は、行うのですか。	<p>野口遵翁の展示につきましては、旭化成の展示センターや東京都板橋区の野口研究所の果たされている役割とは別の役割として、「人間・野口遵」を伝えることが必要と考えており、その中で例えば、「失敗してもあきらめないことの大切さ」等を子どもたちにもわかりやすく伝えていく必要があると考えておりますが、具体的な展示内容につきましては、今後詳細に検討してまいります。</p>
13	野口遵記念館	施設管理	城山公園内の駐車場の管理も含めた方がよいのではないかと。	<p>周辺には、市役所をはじめとして、本市の歴史文化ゾーンを形成する様々な施設が配置されておりますので、利用者の利便性向上のため、このエリア全体の駐車場の在り方や運用方法について、検討を進めているところです。</p>	